

# こやのせだより

「ホンモノとはなにか？」

令和3年3月23日

「キミはホンモノか？」

北九州市立木屋瀬小学校

「木屋瀬小はホンモノか？」

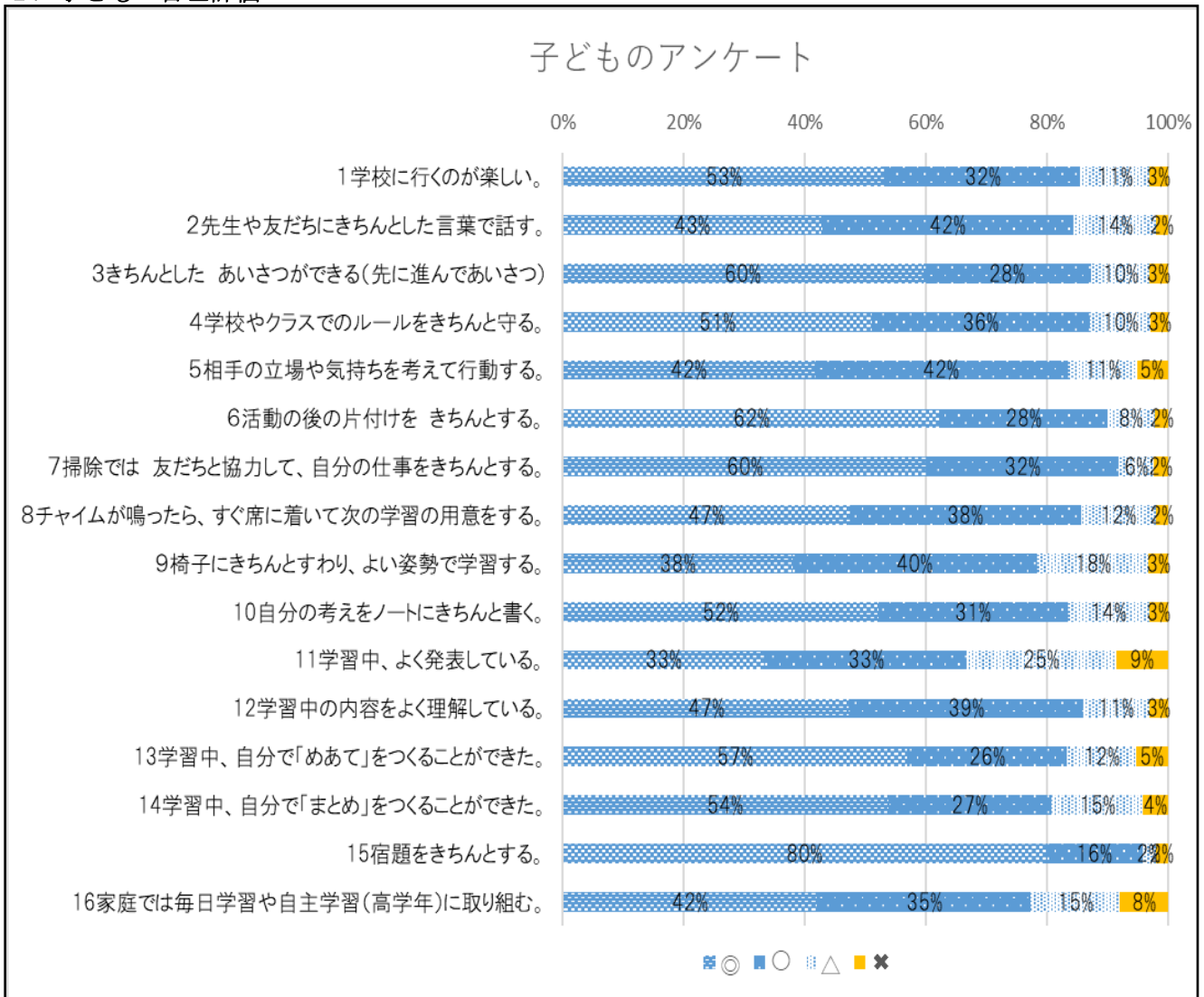
校長 瀧上正彦

## 学年末アンケート集計結果

春暖の候、保護者の皆様におかれましてはご健勝にてお過ごしのことと存じます

本校は、「自ら考え、心豊かで、たくましい子どもの育成」を学校教育目標にして、今年度は「ホンモノを目指す」を重点目標として取り組んできました。「ホンモノは自ら考え行動する」ことを教え、取り組んで参りました。今年一年を振り返り、年度末に児童、保護者、教師アンケートの集計結果をまとめましたのでお知らせいたします。

### 1. 子どもの自己評価



子どもたちへのアンケート結果です。1～7は生活について、8から16は学習について尋ねました。

子どもたちの自己評価結果を、「◎よくできた、○まあまあできた」を「△あまりできなかった、✕できなかった」にまとめ、違いが分かるようにグラフ化しました。

◎と△✕で分けると、自己評価が高いのは、「15 宿題 96%」、「7 掃除 92%」、「6 活動後の片付け 90%」でした。自分がすべき仕事や後片付けをきちんとすることについて高い自己評価がされています。これは自分がすべきことを自覚し、よく働く木屋瀬小の児童らしい回答であると思います。「やるべきことをきちんとする」という姿勢が定着しています。

次に高い自己評価は「あいさつ 87%」「ルール 87%」「チャイム席 86%」で規範意識の高さが同様に感じられましたが、それに並んで「12 学習内容理解 86%」という評価がでたのは本当に嬉しいことです。

本校児童は、生活に比べ学習に関する自己評価が低く、学習への苦手意識が感じられます。しかし、学習

への質問項目の中でも「12 学習内容の理解 86%」は、これまでにない高い自己評価です。

今年は、「算数のテストの点を上げる」という分かりやすい目標をもち取り組んできました。残念ながら、点数向上までには至りませんでした。CRTや北九州市の学力状況調査の結果を見ると、特に国語の読み取る力をもっとつけたいと感じています。算数の問題も単純な計算問題は出題されなくなり、文章で問いかける問題が多くなってきています。高校入試が読み取る力、思考する力の測定に変わってきているからです。

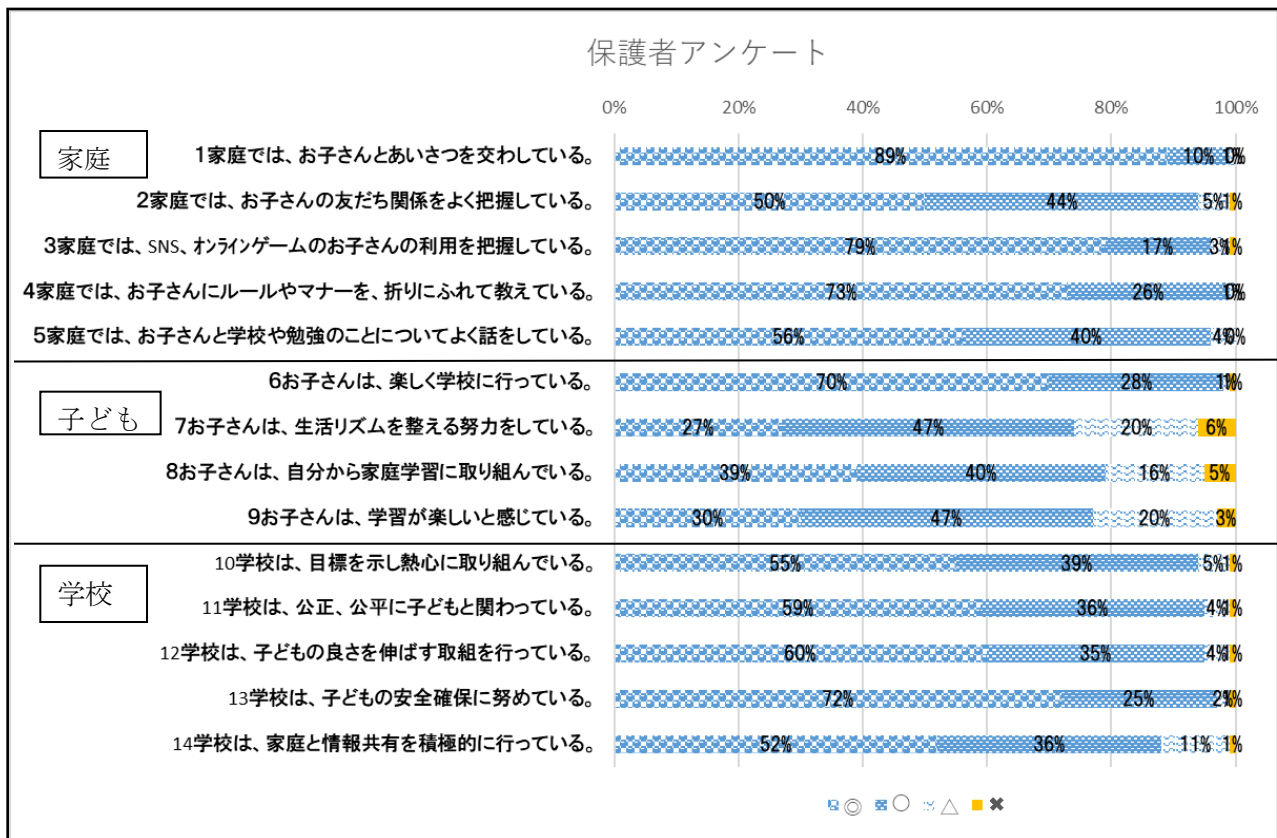
しかし、「やればできる」という自信が子どもについてきた手ごたえはあります。来年度は、手ごたえだけでなく、実際に力がついたという実感を持ってほしいと願います。

そこで来年度は、国語の読み取る力に焦点を当てた取り組みが必要だと感じています。ご家庭でも、ぜひ一緒に読み聞かせをしたり、母と子の図書館に行ったりして、読書の楽しさに触れてもらえたらと思います。漫画からでもよいので、文字に触れるチャンスを多くしてもらえたら嬉しいです。

学校では、ノートに自分の考えを書く、振り返りを書くなど、書く活動を多く取り入れ、正しい筋道の通った文章や自分の頭で考えた文章が書けるように徹底したいと思います。

最後に、自己評価が低かったのは「11 学習中の発表 66%」「16 家庭学習や自主学習 77%」「9 良い姿勢で学習 78%」で主に学習に向かう態度に関するものでした。態度面の育成については、「させられる」態度から「したくなる」態度へと変換していかなければならないと感じています。そのためにも、教師の授業力向上に取り組んで参ります。

## 2 保護者自己評価



保護者の方が感じた、今年一年の、家庭、児童、学校の取組について評価をしていただきました。「◎できた○まあまあできた」と「△あまりできなかった✖できなかった」に分けて比べました。保護者評価が高かったのは、家庭 97%→学校 94%→児童 82%の順となっています。

家庭の取組に対する評価は、「1 あいさつ 99%」「4 ルール・マナー 99%」を筆頭にどれも高く、最下位の「2 友達関係の把握」についても 94%となっています。熱心にご家庭で子育てに取り組まれていることが分かります。子どもが毎日学校で頑張れるのは、家庭のおかげです。感謝しております。ただ、子育てに関しては思うようにいかないのが当たり前で、大変なことも多々あると思います。悩み等ありましたら遠慮なく学校へご相談ください。

学校の取組に対する評価は、「13 子どもの安全確保 97%」が最も高い評価を頂けました。今年のコロナ禍の中で、学校が安全第一に職員・児童と一丸となって取り組んだ事実がしっかり伝わったと喜んでおります。また、「10 目標設定と取組 94%」「11 公正・公平 95%」「12 良さを伸ばす 95%」という項目に対しても、

高い評価をいただいたことを大変嬉しく思っております。さらに◎が増えていくよう職員一同で共通理解を進め、取り組んで参ります。

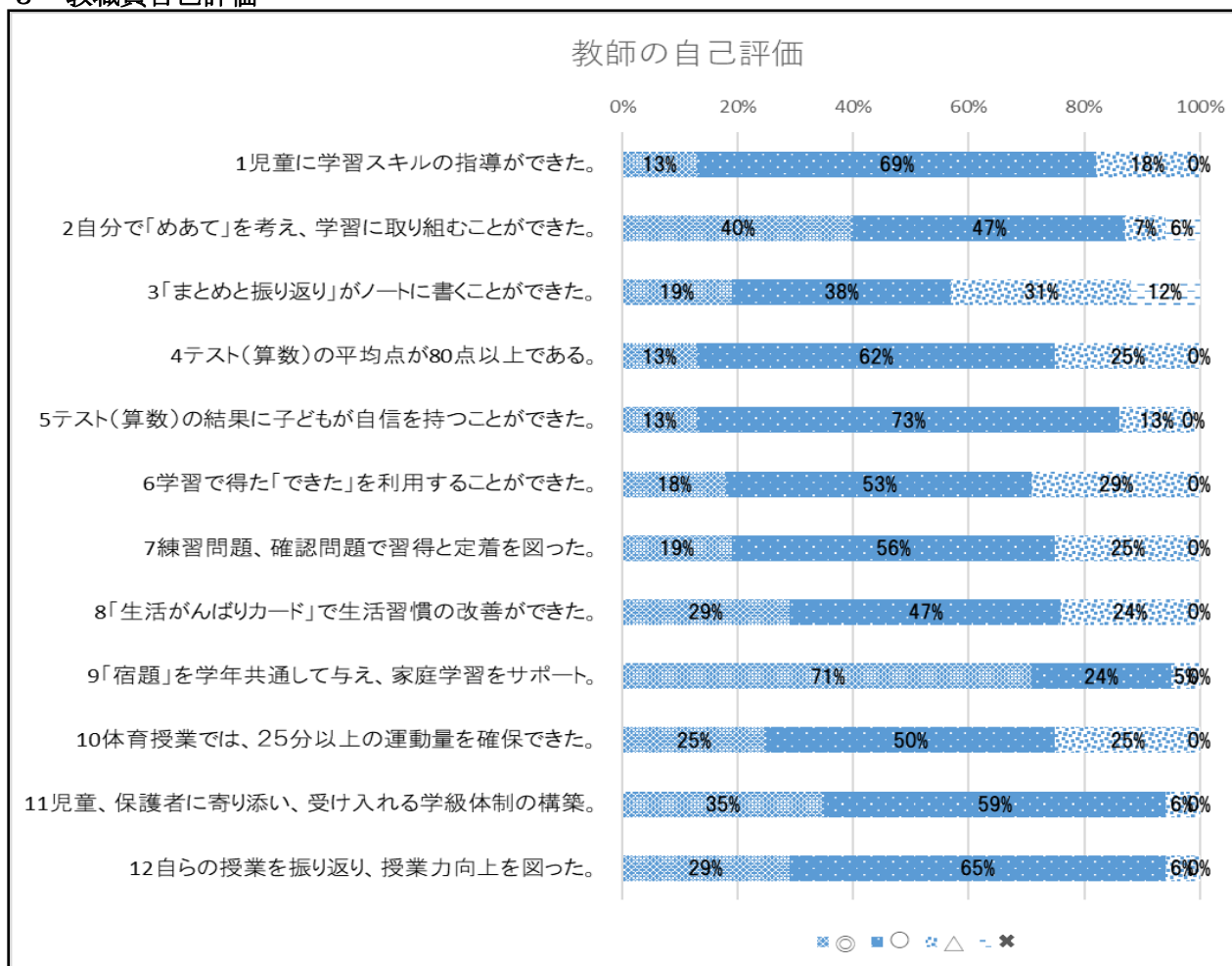
最下位の「14 家庭との情報共有 88%」については、決して低くない数字ですが、コロナ禍で学校参観ができない中で「お子様の学校での様子をもっと知りたい」という思いだと思います。家庭訪問時に、保護者の方が「学校の様子が分からない」と嘆いておられるという話を聞き、ホームページやメールでの発信、ライブ配信等に努めてまいりました。定期的なテレビ報道もありました。しかし、まだまだ十分とは言えません。今後も保護者の方との多様な形での情報共有に努めてまいりたいと思います。

最後に「お子様への評価」ですが、「6 子どもが楽しく学校に通っている 98%」は大変嬉しい数値です。非常事態宣言で学校にいけない時期があり、行くこと自体が楽しかったという側面はあると思いますが、学校の感染対策を評価していただいて安心して登校させることができたという保護者の方の声もお聞きしました。

また、行事等がなくなったのは残念なことです。反面行事の練習で時間を奪われず、教師と児童の語らひの場が多く持て、「指示・命令して動かすのではなく子どもに考えさせて動かす」ということもできました。そのため、学校生活において叱ることが減り、褒めることが増え、子どもの自己肯定感が高まりました。そうした効果もあると思います。この教訓をもとに来年度も、学校行事を大幅に見直し、子どもが「自ら考え創造する」学校行事づくりに挑戦していきたいと考えています。

一方、お子様に対する保護者の評価で低かった項目が、「7生活リズム 74%」「9学習が楽しい 77%」「8家庭学習 79%」となっています。お子様に関しては身内だけに大変厳しい評価となっています。どの家庭でも苦労している項目であると思います。生活頑張りカードから見える上手な子育てをされる方は以下のような働きかけをしています。それは、学校がこれから「指示・命令」から「自ら考えて行う」ことを重視していくように、ご家庭でも「主体性」を重視して育てています。具体的には「早くしなさい!」という指示・命令から、「今からあなたは何をすべきなの?」という問いかけに変えていくことだと思います。大変忍耐のいる作業ですが、段々と親も子もニコニコ笑顔になるという想定で進めていきます。どうぞ共に子育てがんばっていきましょう。

### 3 教職員自己評価



教師の自己評価です。「9「宿題」を与え家庭学習をサポート 95%」という項目の評価が最も高いです。

宿題については、子どもも保護者も同様に「今年1年がんばった」という気持ちが表れています。ただ**家庭学習については、一人一人しっかりとめあてを持って取り組まないと効果が出ません**。来年度は自主学習（自学）にも積極的に取り組ませ、家庭での目的を持った自主的な学習の構築に努めたいと思います。

また、**休校時の宿題**については、子どもが一人で家庭にいる環境下で、どうしたら自ら学習に取り組めるのか悩みました。職員同士でたくさん話し合い**宿題の出し方を工夫**しました。後半は、未履修の学習についてまで宿題を出さなくてはならずかなり苦戦しました。また、**心理的サポート**が必要と考え、メールで担任からメッセージを送ったり、ハガキを同封して子どもから担任に送ってもらい双方向のやり取りができるようにしたりと教師も頑張りました。ドライブスルー方式で直接取りに来ていただいたのも対面でお渡ししてご家庭の様子が見たかったからです。ご家庭のご協力にも感謝します。

「11 児童、保護者に寄り添う学級体制の構築 94%」も高い評価でした。この項目も上記のように、児童・保護者が困ったときに寄り添うことができる学校体制を心がけました。十分なことができなかったとは思いますが、寄り添う気持ちで頑張ったという気持ちをご理解頂けたらと思います

「12 自ら授業力向上 94%」については、今年学校として新しい研修体制を構築し、取り組んだ結果だと思えます。一つは**メンタリング**という研修体制で、教師自ら相互にお互いの優れた点を学び合うことができるよう、互いに授業観察や面談を申し出て技術を学び合う手法です。何度も授業を見合い実践することで授業力の向上が図れたと考えています。この取り組みは次年度も続けてまいります。

他にも、チャレンジタイムを使った「**コグトレ**」という広島大学宮口教授と連携した認知機能のトレーニングや市教委、河川財団から支援いただいた**防災教育や新しい価値を生み出すカリキュラム**開発、科学教育を中心とした取組は**子ども科学教育研究論文で優秀賞**を受賞しました。また、木屋瀬小学校の子どもたちの自学ノートをもとに「**科学的思考力を育む自学のススメ**」という書籍が一般書で6月下旬に発売されます。さらに、コロナ禍における木屋瀬小学校の取組が、NHKで**4月10日（土）7:35から25分間の番組**となって紹介されます。楽しみにしてください。

課題としては、「**3まとめと振り返りをノートに書く 57%**」が大変低い数値でした。今年は45分間の授業が40分となったため、授業の最後に子ども自ら振り返りをする時間が取れませんでした。この**振り返りの時間はとても大切**で、学びを定着させる意味と自分の学びの足跡をまとめる思考力の育成の意味があります。また、自己の成長を実感させること、学習する意味付け意義付けにもつながります。来年度は45分間授業に戻りますので、この時間を大切にしていきたいと思えます。

#### 4 来年度の方向性

来年度は「**子どもの主体性**」がテーマです。

どのような時代を迎えても、「自ら困難に立ち向かい、自分の頭で考えて行動して乗り越え、楽しい生活を創り出す」ことができるたくましい子どもたちを育成していきたいと思えます。

そこで、**来年度は「自ら創り出す」を子どもたちと共に学校目標として設定**しようと考えています。

運動会、学習発表会、その他様々な行事を子どもたちと見直し、新しい運動会や学習発表の在り方を「創り出して」いきます。そのためにも、練習時間等を大幅にカットして、子ども同士、子どもと教師のふれあい、話し合い創り出す時間を増やします。

**1学期**は、運動会を行いません。学年単位で1年間を見通した目標とロードマップを引き実践します。学年テーマのダンスや歌も取り入れます。主に学習習慣の基礎、コグトレや書くことを中心に基礎学力を構築します。自学の取組も促します。また、自然への関心を高める科学フェスタができないか模索します。

**2学期**は、運動会を秋に行います。学習発表会は行いません。運動会は子どもも大人も楽しめる練習不要の参加型の運動会づくりにチャレンジします。学習はノートづくりを中心とした思考力を高める学力の構築に挑みます。

**3学期**は、全校では集まらず各学年や学級を単位とした学習発表に挑みます。歌や合奏だけでなく、総合的な学習や教科学習で重点的に取り組んだ内容の発表も行います。伝える力＝プレゼン力を磨きます。

最後になりましたが、1年間保護者の皆様の温かいご支援ありがとうございました。

お陰様で無事一年間を結ぶことができました。

1年間ご理解、ご協力ありがとうございました。